

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・産業廃棄物管理票(マニフェスト)に沿って廃棄物処理を行っている。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1					
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・自社のエネルギー使用量を把握し、社内に周知することにより、節電意識を高めている。 ・残業をなくすことで消費電力の削減に取り組んでいる。							7.3						13							
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●					2.4				7.2 7.3 7.a						12.4	13	14	15				
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・自社の製品は環境保全の理念に基づいて生産性向上を目的とした製品である。 ・排水処理製品については生物処理によるシステムを開発している。						6.6									14	15				
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・自社の製品は受注生産、オーダーメイドの製品であり、ゴミを出さない効果的な資源利用に取り組んでいる。 ・再生紙の利用を推奨している。 ・エコバックの利用を推奨している。										9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15				
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・節水や汚水等の適切な処理に取り組んでいる。							6.1 6.3 6.4 6.6 6.b						11.5		14.1 14.2 14.3	15			17	
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・小さなエネルギーを使って大量の酸素ファインバブル水を生成する、地球温暖化に対応した製品の開発、製造を行っている。											9.4		12.4 12.5	13	14	15				
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●		・食材は小分けにして冷凍保存を活用し、食品ロスの削減に取り組んでいる。 ・生産者の現状を知ること、社員の食品ロスに対する意識を高めている。	1	2					6.4							12.3		14	15			17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●		・事務所の壁面緑化や植栽に取り組んでいる。 ・近くの耕作放棄地を借り上げ整備し、野菜や花を育て管理している。													11.6 11.7		13.1 13.3		15			17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。	●		・事務所内のエアコンなどを省エネ対応の商品に変えている。 ・事務所の外壁を断熱効果の高い塗料に変えて、エネルギー効果の見直しを行っている。								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4			11.5		13.1 13.3					
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・「伐って、使って、植えて、育てる」の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●		・竹林保全に一環として、水産用設備の水質浄化装置のフィルターとして熊本県竹チップを利用している。						6						9.4	11.3 11.4 11.5	12.2	13		15			
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●		・植林活動や河川の清掃活動を行っている。							6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15			
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●		・社食を導入することで弁当などのプラスチック製品の使用削減に取り組んでいる。														12.2 12.5		14				
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●		・社員には自転車通勤を推奨し、営業担当の社員に関しては、極力公共交通機関の利用を推奨している。											9.4		11.2		13.1 13.3					
36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●											7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13					17.2	

